

「マナー学」の実践報告

江 頭 万 里 子

A Report on “Manners”

Mariko EGASHIRA

キーワード：マナー実践報告 マナーチェックシート 自己評価

1. はじめに

長崎女子短期大学（以後、本学と称す）は、建学の精神と教育理念を具現化するために、教育目標（学訓）である「尽心・創造・実践」に基づいて、学修成果の到達目標を設定している。「尽心」についての到達目標は、「他者の人格を十分尊重して誠意と品格を持って尽力することで、『誠実な人柄と人間力』を身に付ける。」である。これは、平成26年度に本学が初年次教育として開講した「マナー学」の目指すところとまさしく合致するものである。

河合塾（2011）は、初年次教育は、「その大学・学部が必須と考える最低限の内容が、すべての学生に保証されている必要がある。」（p.7）とし、選択科目では、選択しない学生もいることから初年次教育としては、不十分であることを述べている。また、日本私立短期大学協会は、初年次教育について「短期大学教育の再構築を目指して」の「教育の質保証」において、基礎学力の不足、学習意欲の低下など、学習者の資質に関わる問題が高等教育機関で顕在化していることを紹介した上で、「修学期間の短い短期大学においては、より積極的な取組みが必要である。例えば、自己分析力、行動力、質問力、社会人としてのマナー等の修得を目指し、実践的かつ集中的な学習で意欲を向上・継続させ客観的評価まで含めた教育プログラム開発とシステムの構築が考えられる。」（2009、p.60）と提言し、初年次教育としてマナー教育

も必要であることを述べている。

本学の「マナー学」は必修科目であり、全学科の1年生が対象であることから、初年次教育としても短期大学の質保証においても有効であるものとする。

平成26年度は、学生が「マナー学」の授業時だけでなく日常生活においてマナーを意識するように、良好なマナーの実践報告（平成26年度本学紀要第39号に報告済み）を義務付けた。本年度（平成27年度）は、良好なマナー実践報告と併せて筆者が作成した日常のマナーのチェックシートで自己評価を行わせた。本稿では、その結果について報告し、学生の日常のマナー向上への「マナー学」の学修効果を検証する。

2. 背 景

「マナー学」は、職場で求められるマナーを中心に学修する科目である。職場において良好なマナーを実践するためには、職場だけではなく、日頃からその人の資質としてマナーの基本である他者に対する思いやりの心を備えていなければならない。前述のとおり、学習者の資質に関わる問題が高等教育機関で顕在化しているが、本学も例外ではなく入学時に基本的なマナーを身に付けていない学生が見受けられる。

日常のマナーを身に付けるためには、日頃からマナーを意識して生活することが必要であると考え、平成26年度は、学生が1か月にひとつの良好

なマナーの実践目標を定め、それを実践し、その結果を文書と口頭で報告する課題を与えた。実践後の感想から学生は、課題を通して他者に対する思いやりの心の大切さ、良好なマナーで接した時の相手の反応の変化、意識して続けることの大切さなどを自らの体験から学んでおり、一定の学修効果を得ることができた。

しかし、マナーは日常の様々な場面で求められるものであり、1か月に1つの目標では少ないのではないか、日常のその他のマナーも意識させる必要があるのではないかという課題が残った。

3. マナーチェックシートによる自己評価について

学生が、自らの日常のマナーの状況を確認し、併せて質問項目を読むことによって日常生活で求められるマナーを再認識するように、筆者の作成したチェックシートを用いて自身のマナーの評価を行わせた。また、全体的に評価の低かった項目については、そのマナーがなぜ必要なのかを考えさせ、改善を促した。

(1) マナーチェックシートの詳細

質問の内容から、質問項目を4つのカテゴリに分類した。

質問項目：学内（公共）のマナー	10項目
受講マナー	6項目
バスマナー	5項
家庭内のマナー	1項目
計	22項目

質問の内容

<学内（公共）のマナーについて>

①いつも自分からさわやかに挨拶する。⑧場所をわきまえて行動している。（公共の場所で大きな声で騒いだりしない。ロビーや廊下の椅子にだらしなく座っていない。）⑨廊下は人が通るスペースを考えて歩いている。⑩トイレのマナーを心掛けている。（ペーパーを補充する。トイレをきれいに使う。手洗いに落ちた髪を残さない。水滴を拭く。など）⑪学生らしい身だしなみを心掛けている。⑫美しい姿勢を心掛けている。⑬TPOに

合った立居振舞をしている。（姿勢、お辞儀、態度など）⑭TPOに合った話し方をしている。（敬語を遣うなど）⑮研究室訪問時には、ノックをして、返事があったら入口でクラスと氏名を伝えて、先生の都合を確認し、許可を得てから入室する。⑯マスクを着用している場合、人とコミュニケーションをとるときは、マスクを外している。

<受講マナー>

②時間管理ができている。（遅刻しない）③授業が始まる時間になったら私語を慎む。④授業中には、不要な私語は慎んでいる。⑤授業中に突っ伏して寝ていない。⑥授業中に携帯（スマートフォン）を触っていない。⑦授業終了後机上の消しゴムかすを片付けている。

<バスマナーについて>

⑦並んで乗車している。⑧老人や体の不自由な人に席をゆずっている。⑨車内では、大きな声でおしゃべりしない。⑩降りる人がいたら、通りやすいように通路を空けている。⑪バスの中では、化粧はしない。

<家庭内のマナーについて>

⑫いつも家族に自分から挨拶している。（おはよう、おやすみなさい、行ってきますなど）

(2) 評価方法

評価方法は、4段階評価とし4または1を選んだ場合は、理由を記入させた。

4段階評価の基準

4. とても当てはまる 3. 少し当てはまる 2. あまり当てはまらない 1. 全く当てはまらない

(3) 対象者

生活創造学科介護福祉士コース1年生（以後、Fと称す） 15名

生活創造学科栄養士コース1年生（以後、Sと称す） 42名

生活創造学科ビジネス・医療秘書コース1年生（以後、Lと称す） 15名

ビジネス・医療秘書コースの学生は「マナー学」を後期に受講する。

(4) 実施時期

平成27年度前期

1回目：「マナー学」の1回目の授業時

2回目：「マナー学」の15回目の授業時

Lについては、筆者が担当する「秘書概論」の1回目と15回目の授業時に実施した。

4. マナーチェックシートの結果と考察

「マナー学」を受講したFおよびS（以後、FSと称す）と「マナー学」未受講のLのチェックシートによる自己評価の結果からマナー学の学修成果を検証する。

(1) マナーチェックシートの項目別の平均点と全体の平均点

LおよびFSのマナーチェックシートの1回目と2回目の項目別の平均点と全体の平均点は、表1のとおりであった。L、FS共に2回目は2名の欠席があったが、それぞれ各グループの平均点を獲得したものとして計算した。

(2) マナーチェックシートの平均点の差から見た「マナー学」の学修成果

マナーチェックシートのLの1回目の平均点と2回目の平均点の差（ $L2 - L1$ ）とFSの1回目の平均点と2回目の平均点の差（ $FS2 - FS1$ ）との差が学修成果であると捉え、学修成果を表2に、項目別のLとFSの1回目と2回目の差を図1に示す。Lの1回目の平均点と2回目の平均点の差（ $L2 - L1$ ）とFSの1回目の平均点と2回目の平均点の差（ $FS2 - FS1$ ）に統計的に有意な差があるか調べるために、有意水準5%で両側検定の t 検定を行ったところ、有意な差はなかった。

有意な差がなかったのは、Lの学生も入学後さまざまな折にマナーについて指導を受けていること、マナーチェックシートで自己評価することでマナーチェックシートの内容を意識したこと、学生の日常のマナーで気になる点は、「マナー学」の授業時同様、「秘書概論」の授業時に学生に伝えていたことなどが考えられる。

表1. 項目別のLとFSの平均点と全体の平均点

項目	L1	L2	FS1	FS2
1	2.80	2.92	2.77	3.24
2	3.07	3.23	3.21	3.40
3	2.73	3.15	2.93	3.05
4	3.07	3.31	3.12	3.20
5	3.20	3.31	3.46	3.54
6	3.67	3.38	3.75	3.46
7	2.40	3.15	2.68	3.35
8	2.87	3.31	3.14	3.60
9	3.00	3.46	3.14	3.40
10	2.87	3.15	2.98	3.38
11	3.00	2.92	3.11	3.45
12	2.47	2.54	2.47	2.95
13	2.67	3.08	2.77	3.20
14	2.80	3.15	3.11	3.49
15	2.33	3.38	2.86	3.37
16	2.47	3.31	2.47	3.27
17	3.47	3.77	3.28	3.53
18	3.00	3.15	3.09	3.36
19	3.13	3.38	3.26	3.51
20	3.40	3.69	3.51	3.75
21	3.73	3.69	3.75	3.83
22	3.53	3.46	3.11	3.31
全体	2.98	3.27	3.09	3.39

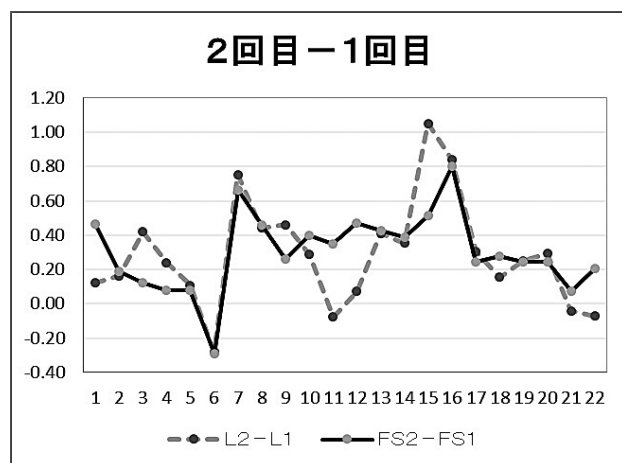
(3) 項目別の学修成果

Lの1回目の平均点と2回目の平均点の差とFSの1回目の平均点と2回目の平均点の差には統計的に有意な差はなかったが、項目別に有意な差があるか調べるために、有意水準5%で両側検定の t 検定を行ったところ、①いつも自分からさわやかに挨拶する。②美しい姿勢を心掛けている。 $(p < 0.01)$ 、③学生らしい身だしなみを心掛けている。④研究室訪問時には、ノックをして、返事があったら入口でクラスと氏名を伝えて先生の都合を確認し、許可を得てから入室する。⑤老人や体の不自由な人に席をゆずっている。 $(p < 0.05)$ に有意な差があった。①については挨拶の大切さを「マナー学」で学んでいること、多くの学生が良好なマナー実践の目標として取り組んでいたこと、②については、「マナー学」で身だしなみについて学んでいること、③については、「マナー学」で立居振舞について学んでいること、良好なマナー実践の目標として取り組んでいること、④については良好なマナー実践の目標として取り組んでいたことなどが、結果に影響を与えたのでは

表2. 項目別のLとFSの1回目と2回目の差と、それぞれの差（学修成果）

	L差	FS差	学修成果(FS差-L差)
項目	L2-L1	FS2-FS1	(FS2-FS1)-(L2-L1)
1	0.12	0.46	0.34
2	0.16	0.19	0.03
3	0.42	0.12	-0.30
4	0.24	0.08	-0.16
5	0.11	0.08	-0.03
6	-0.28	-0.29	-0.01
7	0.75	0.66	-0.09
8	0.44	0.46	0.02
9	0.46	0.26	-0.20
10	0.29	0.40	0.11
11	-0.08	0.35	0.43
12	0.07	0.47	0.40
13	0.41	0.43	0.02
14	0.35	0.39	0.04
15	1.05	0.51	-0.54
16	0.84	0.80	-0.04
17	0.30	0.25	-0.06
18	0.15	0.28	0.12
19	0.25	0.25	-0.01
20	0.29	0.25	-0.05
21	-0.04	0.07	0.11
22	-0.07	0.20	0.28
全体	0.28	0.30	0.02

図1. 項目別の1回目と2回目の差



ないかと思われる。

⑮については、Lは1回目で1をつけた学生が15人中4人いたことが影響して1回目の平均点が、FSの平均点より0.53点低かった。入学後、コースの指導で改善したことでFSに比べLの方が2回目と1回目の差が大きくなったものと思われる。

(4) 項目別の4段階評価の構成比による対比

項目別の1回目と2回目の4段階評価の構成比を比較し、「マナー学」の学修効果があったと思われるものを、表3-1～5に示す。

表3. 項目別の4段階評価の構成比
表3-1.

1.いつも自分から爽やかに挨拶する				
L	4	3	2	1
第1回	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%
第2回	0.0%	92.3%	6.7%	0.0%
FS	4	3	2	1
第1回	1.8%	75.4%	21.1%	0.0%
第2回	29.8%	63.2%	7.0%	0.0%

①いつも自分から爽やかに挨拶する。については、1回目は、LとFSの構成比にほとんど差はなかった。2回目は、当てはまる領域（4と3の合計）の割合は、LとFSでほぼ差はないが、Lはとても当てはまるが0%であったのに対し、FSは28.6%がとても当てはまると答えている。とても当てはまるの割合が増えたのは、良好なマナー実践の目標にしたことで、特に意識したことによるものと思われる。

表3-2

7. 授業終了後机上の消しゴムかすを片付けている				
L	4	3	2	1
第1回	0.0%	53.3%	33.3%	13.3%
第2回	33.3%	46.7%	20.0%	0.0%
FS	4	3	2	1
第1回	5.3%	59.6%	33.3%	1.8%
第2回	43.9%	45.6%	10.5%	0.0%

⑦授業終了後机上の消しゴムかすを片付けている。の2回目の結果は、当てはまる領域の割合がLは80%、FSはLに比べてとても当てはまる領域の割合が10.6%多く、89.5%だった。学内環境については4S活動を通して全学的に力を入れており、Lの学生の意識も高くなったものと思われる。この項目も良好なマナー実践の目標となっていた。4Sとは「整理」「整頓」「清掃」「清潔」のことである。

表 3-3

10. トイレのマナーを心掛けている。				
L	4	3	2	1
第1回	13.3%	66.7%	13.3%	6.7%
第2回	40.0%	40.0%	13.3%	6.7%
FS	4	3	2	1
第1回	14.0%	70.2%	15.8%	0.0%
第2回	36.8%	63.2%	0.0%	0.0%

⑩トイレのマナーを心掛けている。(ペーパーを補充する。トイレをきれいに使う。手洗いに落ちた髪を残さない。水滴を拭くなど) については、1 回目の L と FS の結果はほとんど変わらなかったが、2 回目では、L が20%の学生が当てはまらない領域であったのに対し、FS は全員が当てはまる領域であった。この項目も、良好なマナー実践の目標として取り組んでおり、その効果が出たものと思われる。

表 3-4

11. 学生らしい身だしなみを心掛けている				
L	4	3	2	1
第1回	6.7%	86.7%	6.7%	0.0%
第2回	13.3%	66.7%	20.0%	0.0%
FS	4	3	2	1
第1回	17.5%	75.4%	7.0%	0.0%
第2回	43.9%	56.1%	0.0%	0.0%

L の2 回目では、20%があまり当てはまらないと答えているのに対して FS の2 回目では、全員が当てはまる領域であり、とても当てはまるが L は13.3%であるのに対して FS は43.9%であった。

表 3-5

12. 美しい姿勢を心掛けている				
L	4	3	2	1
第1回	0.0%	53.3%	40.0%	6.7%
第2回	0.0%	60.0%	40.0%	0.0%
FS	4	3	2	1
第1回	3.5%	47.4%	42.1%	7.0%
第2回	12.3%	70.2%	17.5%	0.0%

⑫美しい姿勢を心掛けているについては、L の2 回目の結果は、当てはまる領域では少し当てはまるが60%であり、あまり当てはまらないが40%であった。FS は、82.5%が、当てはまる領域であった。「マナー学」で立居振舞について学んで

いること、良好なマナー実践の目標として取り組んでいることが影響したものと思われる。

(5) 学修成果における質問項目間の相関

「マナー学」の学修成果 (FS2 - FS1) において質問項目間に相関があるかを見るためにピアソンの相関係数を求めた。結果は、図2 のとおりであった。

①いつも自分からさわやかに挨拶するとは、④授業中には不要な私語は慎んでいると ($p < 0.01$)、⑦授業終了後机上の消しゴムかすを片付けていると⑧場所をわきまえて行動している (公共の場所で大きな声で騒いだりしない。ロビーや廊下の椅子にだらしなく座っていない。) ⑫美しい姿勢を心掛けているとに正の相関があった。 ($p < 0.05$)

④授業中には不要な私語は慎んでいるとは、⑧場所をわきまえて行動している (公共の場所で大きな声で騒いだりしない。ロビーや廊下の椅子にだらしなく座っていない。)、⑫美しい姿勢を心掛けている、⑬車内では、大きな声でおしゃべりしないと ($p < 0.01$)、⑪学生らしい身だしなみを心掛けている ($p < 0.05$) とに正の相関があった。

⑧場所をわきまえて行動しているとは、⑬車内では、大きな声でおしゃべりしないと ($p < 0.01$)、⑨廊下は人が通るスペースを考えて歩いている、⑩トイレのマナーを心掛けている (ペーパーを補充する。トイレをきれいに使う。手洗いに落ちた髪を残さない。水滴を拭くなど)、⑫美しい姿勢を心掛けていると ($p < 0.05$) 正の相関があった。

以上、本調査では受講マナーの項目と学内 (公共) のマナーの項目とに、また、学内 (公共) のマナーとバスマナーに有意な正の相関が認められた。

(6) 4 と評価した理由について

4 に付けた主な理由

- ①いつも自分からさわやかに挨拶する
 - ・マナー実践し、今も続けているから
 - ・小学校からしてきたから
- ②時間管理ができています。(遅刻しない)
 - ・余裕をもって行動している
 - ・時間はしっかりと守らなければならないから

図 2. FS の「マナー学」学修成果（2 回目のマナー得点－1 回目のマナー得点）における項目間の相関

	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	質問13	質問14	質問15	質問16	質問17	質問18	質問19	質問20	質問21	質問22
質問1	1.000																					
質問2	0.049	1.000																				
質問3	-0.003	0.195	1.000																			
質問4	0.358	0.042	0.456	1.000																		
質問5	0.018	0.084	0.175	0.214	1.000																	
質問6	-0.011	-0.048	0.133	0.146	0.436	1.000																
質問7	0.283	-0.013	-0.287	0.069	-0.015	0.089	1.000															
質問8	0.285	0.256	0.076	0.360	0.146	0.070	0.135	1.000														
質問9	0.255	0.188	-0.037	0.026	-0.111	-0.069	0.156	0.285	1.000													
質問10	0.128	0.065	-0.126	0.190	0.190	0.136	0.032	0.336	0.044	1.000												
質問11	0.208	-0.253	-0.036	0.272	-0.048	-0.088	0.334	0.145	0.173	-0.092	1.000											
質問12	0.290	0.019	0.107	0.393	0.209	-0.207	0.059	0.275	0.267	-0.011	0.208	1.000										
質問13	0.191	0.224	0.109	0.101	0.182	0.102	0.168	0.131	0.227	-0.056	0.085	0.306	1.000									
質問14	-0.008	0.074	0.126	0.058	-0.146	-0.025	0.162	0.263	0.131	-0.047	0.216	0.191	0.046	1.000								
質問15	-0.015	-0.130	-0.023	0.157	0.201	0.025	0.079	0.206	-0.248	0.157	-0.059	0.082	0.021	0.057	1.000							
質問16	0.097	0.040	-0.254	-0.107	-0.309	-0.200	0.374	0.227	0.202	0.114	0.153	0.037	-0.023	0.286	0.136	1.000						
質問17	-0.026	0.012	0.014	0.072	0.076	-0.151	-0.086	0.186	0.283	0.036	0.013	0.232	0.136	0.001	0.046	-0.004	1.000					
質問18	0.019	-0.034	-0.346	-0.059	-0.091	0.088	0.268	0.105	-0.003	0.159	0.028	-0.111	-0.024	0.225	0.320	0.201	-0.337	1.000				
質問19	0.132	0.080	0.105	0.410	0.133	0.166	0.206	0.347	0.147	0.188	0.108	0.220	0.043	0.170	0.070	0.092	0.163	0.044	1.000			
質問20	0.058	0.156	-0.063	0.021	0.064	0.010	0.094	0.211	0.198	0.159	-0.003	0.082	-0.086	0.211	0.020	0.158	0.087	0.211	0.266	1.000		
質問21	0.218	-0.074	0.174	0.235	0.099	0.164	-0.060	0.061	0.086	-0.016	0.049	-0.009	-0.117	0.204	0.118	-0.068	0.028	-0.066	0.005	0.042	1.000	
質問22	0.082	0.080	0.247	0.108	0.225	0.105	0.011	0.058	0.243	-0.036	0.147	0.122	0.246	0.163	-0.040	0.144	0.139	-0.030	0.111	0.122	0.181	1.000
	df=55	*p<.05	**p<.01																			
		r>0.266	r>0.345																			

- ・腕時計を持って時間を確認している
- ③授業が始まる時間になったら私語は慎む
 - ・意識して慎む
- ④授業中には不要な私語は慎んでいる
 - ・授業に関係ない話をされたらされた側も迷惑だ
と思うから
- ⑤授業中に突っ伏して寝ていない
 - ・先生に失礼だから
 - ・教えていただく立場だから
- ⑥授業中に携帯(スマートフォン)を触っていない。
 - ・授業中に触るものではないから
 - ・触れないようにしている（バッグの中）
 - ・気になるので電源を切るようにしている
- ⑦消しゴムかすを片付けている。
 - ・次の人の迷惑になるから。
 - ・最初の授業で言われたので続けている。
 - ・マナー実践をして次の人のことを考えて捨てる
ようになった。
- ⑩トイレのマナーを心掛けています。
 - ・次に使う人がきれいな状態で使えるように
- ⑪学生らしい身だしなみを心がけている。
 - ・1回注意されたから。
 - ・毎日心がけている。
- ⑫美しい姿勢を心がけている
 - ・いつも心がけているから。
 - ・気づいたら姿勢を戻すようにしている。
- ⑬ TPO に合った立ち居振る舞いをしている
 - ・礼儀だから。
- ⑭ TPO に合った話し方をしている。
 - ・目上の方と話すときは敬語で話している。
- ⑮研究室訪問時には、ノックをして、返事があったら入口でクラスと氏名を伝えて、先生の都合を確認し、許可を得てから入室する。
 - ・4月のマナーチェック以来気をつけている。
 - ・先生に対して失礼のないように。
- ⑯コミュニケーション時にはマスクを外している
 - ・失礼だから。
- ⑰並んで乗車している
 - ・常識だから。
- ⑱老人や体の不自由な人に席を譲っている
 - ・当たり前だから。
 - ・いつも気をつけて周りを見ている。
 - ・回数を重ねる度に自然とできるようになった。
- ⑳降りる人が通りやすいように通路を空けている
 - ・リュックなど荷物は前に持つようにしている
- ㉑バスの中では、化粧はしない
 - ・しないのが常識だから
 - ・4月のマナーチェック以降気をつけている
- ㉒いつも家族に自分から挨拶している
 - ・小さなころから当たり前になっている
 - ・当たり前だから

4につけた理由には、「～しなければならないから」、「失礼だから」、「礼儀だから」、「常識だから」、「当たり前だから」などの回答があり、4を付けた学生は他者に対する行動の規範を備えていることが分かる。

「最初の授業で言われたので続けている」、「4月のマナーチェック以来続けている」、などの回答からは、日常のマナーを意識させるために「マナー学」の授業やチェックシートが役立っていることが窺える。

「マナー実践し、今も続けているから」、「マナー実践をして次の人のことを考えて捨てるようになった」などの回答から良好なマナー実践の課題が日常のマナーの向上へ役立っていることが分かる。

5. 全体の考察

本稿では、職場でのマナーの基礎となる日常のマナーを身に付けさせることを目的として学生に課した良好なマナーの実践報告と筆者が作成した日常のマナーのチェックシートで自己評価を行わせた結果について報告した。

学生は、マナーチェックシートで自らのマナーを評価することで、日常のさまざまな場面で求められるマナーを再認識し、評価の低い項目を良好なマナー実践の目標として定め、自身のマナーを向上させた。

項目別のLとFSの1回目と2回目の平均点の差の比較や項目別の4段階評価の構成比、チェックシートに4を付けた理由から、良好なマナー実践とマナーチェックシートによる自己評価をすることで日常のマナーを意識させる方法は、学生の日常のマナーの向上に一定の効果があったと思われる。

6. おわりに

谷（2014）は青年の公共空間における社会的迷惑と抑制要因について検討した結果、社会的迷惑抑制のためにできる働きかけとしては、自己のネガティブ認知や罪悪感といった自己認知を高め情動を喚起することが有効である。また、公共空間を

公的な場であると認識させ、周囲の他者の許容度の認知が社会的迷惑の促進要因を抑止すると述べている。例えば、チェックリストにあるバスマナーなどは、学生の意思を尊重しながらも、学生自身の許容度と周囲の他者の許容度の違いを認識させることがマナー改善に有効であろう。

良好なマナーの実践報告では、学生の「行動に現れない思いやり」が見える。バスや電車で老人に席を譲るため声をかけようと思うが、「自分はまだ若い、不要である」と思われまいかと配慮し、声掛けに躊躇する。実践目標だから思い切って声を掛けるとこれまでの心配は不要であり、一歩踏み出す必要があることを知る。実践しなければ分からないことである。

学生が「他者の人格を十分尊重して誠意と品格を持って尽力することで、『誠実な人柄と人間力』を身に付ける。」ことができるように、「考え、実践する」授業法を構築していきたい。

引用文献

- 江頭万里子（2015）「『マナー学』開講初年度の実践報告」『長崎女子短期大学紀要』、39、183-189
- 河合塾（2011）『アクティブラーニングでなぜ学生が成長するのか 経済系・工学系の全国調査からみえてきたこと』東信堂
- 谷芳恵（2014）「青年の公共空間における社会的迷惑と抑制要因の検討－他者との関係性と状況適合性に着目して－」神戸大学学術成果リポジトリ
<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/thesis2/d1/D1006170.pdf>、平成28年1月20日参照
- 日本私立短期大学協会（2009）「短期大学教育の再構築を目指して－新時代の短期大学の役割と機能－」
http://www.tandai.or.jp/kyokai/10/archives/pdf/tandai_houkoku20090116_hontai.pdf、平成28年1月4日参照

参考文献

- 坂井玲奈（2005）「思いやりに関する研究の外観と展望－行動に表れない思いやりに注目する必要性の提唱－」『東京大学大学院教育研究科紀要』45、143-148
<http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/dspace/bitstream/2261/15901/1/KJ00004683028.pdf>、平成28年1月20日参照